（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2396300036		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム豊根の家		
所在地	愛知県北設楽郡豊根村字中村6番地の1		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2396300036-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町２丁目７４番地
訪問調査日	平成30年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニット9名満床の入居状況です。山間部に位置し自然豊かな旧小学校の跡地と環境にも恵まれています。医療面は必要に応じて家族の協力も得ながら病院受診する体制も取っています。日常の健康管理では、看護師の訪問時バイタル測定を行い体調変化観察をしています。地元ボランティアと歌や踊り・ハーモニカ演奏会など行い、交流を図っています。家庭的な雰囲気としてコタツやソファー・テーブル等があり仲の良い者同士での居場所確保ができています。各季節に合った行事の企画・実施、食事の提供に心掛けています。入所者様が住み慣れた地域で馴染みの仲間と楽しく生活して頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

旧小学校跡地の陽当りのよい高台に立地し、利用者が庭で栗拾いもさせてもらえる隣家は無形文化財と成っている茅葺屋根が見事で、周囲にはワサビや山菜が自生しており、リビングからは中学校の寮とともに町全体が見渡せます。建物内にはデイサービスかと見紛うほど壮健な9名が、新聞を読んだり地域の話材で談笑する姿のほか、最も驚くのは自在に鉛筆削り器を使っていることで、見た目通り平均介護度は1．7です。人情味のある村のお歴々に支えられて運営状況には解決向上が見られるとともに、前回の外部評価で課題としていたことは『豊根の家通信』を写真入りで発行することで解決されており、日々前進のある事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示するとともに職員会議にて説明を行い、共有し実践に繋げている。	理念は誰もが目に入る場所に掲示されています。さらに職員一人ひとりに「理念につながる目標をたてよう」と呼びかけ、『8月　毎日の会話を大切に』といった月間目標を職員間で共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買物外出時、食材購入、近隣の方との会話や地域のボランティア団体（唄・ハーモニカ演奏・草刈等）協力頂き交流を図っている。	相互扶助の精神が溶け込んでいる地域とあって、利用者と顔なじみというだけで農作物が事業所に届けられています。また区長が地域行事には必ず誘ってくださり、家庭で暮らすように地域とつながっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者や家族、地域の方など認知症の相談や、地域の勉強会や研修会などに参加し情報共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催し、施設の運営状況を報告し課題については、話合いを行いサービス向上に向けて展開している。	運営推進会議では「何か要望ある？」と事業所ファーストの投げかけがあり、最近も常夜灯の取り付けが村役場で検討されているほか、メンバーの提案から園児が散歩途中に立ち寄ることが実現しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事業者会議を通して当施設の実情を報告し、町や地域包括・民生委員よりいろいろなアドバイスを頂き改善するところは改善するよう心掛けている。また、緊急連絡網の作成等理解と協力を頂いている。	夜間における心配もあって、防災連絡網を作成しています。管理者の想いを汲みとってくださり、区長から民生委員と組長へ、民生委員から役場課長へ（以下中略）と連絡網が築かれ、安心に結ばれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内教育研修AA課程、朝礼等で日常的に学習しています。身体拘束をしないケアに取り組んでおり意識を高めるようにしている。	『緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書』を備え、本年の法改正に則り『身体的拘束適切化委員会』が設置され、年4回開催の運びとなっています。利用者も平均介護度1．7とあって職員を指導する言葉も見受けられ、本件とは無縁の環境にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修でA・B課程を修得し身体拘束をしないケアに取り組んでおり意識を高めるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や職場会議など日常的に学習し実践するよう職員同士取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約書に基づきキーパーソン（家族等）に説明及び質疑応答し納得して頂いた上で契約している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や日常生活の中で各職員が各利用者さんより意見や要望を聴き満足が得られるように対応している。面会時、家族の方には、ホームに対しての意見を聞くことに心掛けている	1名のみ交通事情から年数回ですが、地元であれば週1回、遠方でも月1回程度の家族来訪があります。『豊根の家通信』の写真を楽しみとされる家族も増えていて、現在のところ要望めいたものは届いていません。	現在通信は行事報告が主となっていますが、今後は予定もいれて家族がさらに参加しやすくなることを期待します。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い、地域責任者・管理者が出席し、意見や提案等を通して可能な限り、運営に反映している。また職員は申し送りノートを活用し意見交換している。	経験者である新人2名が加わったことから、これまで取組んでいたことを説明するために、先人たちがより深く思慮することが求められていて、気持ちの良い緊張感のなかで改善が進んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境を考慮した勤務形態をとっている。勤務状況を把握・評価し、給与・賞与に展開している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力に応じて本部・事業所内・外部教育参加（定期・不定期）にて人材育成を図っている。資格取得に向け勤務面でサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村、社協、地域包括、病院主催の会議や研修会などに出席しお互いに情報交換している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居説明・契約時に本人にフェイスシート・アセスメントシートに基づき情報を得てサービスに展開している。サービス提供を開始してからは、日常生活での関わりの中から情報収集し、信頼関係改善に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明・契約時に本人に関する家族からの情報をフェイスシートに記載してサービスに展開している。ご家族が訪問時、生活状況を報告し要望等をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居説明や契約時に本人に関する家族からの情報ををフェイスシート、アセスメントに記載して展開している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に買物・花壇活動・掃除・洗濯物干し、たたみ等を行い生活行動を共に参加している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族へ本人の生活状況を報告し、家族から意見を頂きサービス提供に生かしている。また、家族と外出する場合も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会が自由に出来ている。地域内での外気浴・散歩・買い物・地域行事の参加を通して馴染みの関係が図られている。	里芋とそば粉を練った、地元の伝承料理『けい餅』は皆大好きで、事業所でも提供しています。また大半の利用者が農家出身なことから、春菊、ネギの栽培を通じて其々が経験と知恵を出し合い、談笑が絶えません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置やレク等を通して利用者同士が関わり、支え合えるように職員が利用者様一人ひとり把握し支援している。日常生活の中で共同作業が出来るよう支援している。（洗濯物干し、たたみ、掃除等）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した家族からの相談等あれば支援するよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で、各職員が各利用者よりニーズを汲み上げて可能な限りサービスに盛り込み支援している。	意見がごく普通に出てくる利用者ばかりで、運営に反映されています。例えば行事も「何かやりたいことある？」と利用者とやりとりを重ね、『仕出し屋の弁当を持参して紅葉狩り』といったセット企画が生まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを基に利用者様との会話等を通じ、これまでの暮らし方、馴染みの暮らしの把握に努めている。又、新たな事実が分かった時点で記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にし、日常生活では心身の状態を観ながら残存能力に応じて生活支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリング・本人家族の意向聴き取り・職員カンファレンスを実施して介護計画に展開している。	職員は介護記録に毎日実施記録をとることで、介護計画書のサービス内容を意識した実践が叶い、管理者からは「サービス向上に繋がるから～」と呼びかけがあり、計画作成担当者取得も推奨されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録及びカンファレンス内容に基づき介護計画を作成している。入院して退院した場合には、介護計画を再検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診付き添い・散髪は、基本として家族対応であるが、都合のつかない場合は、職員対応している。外食も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア活動の受入れや近隣の保育園児・小学生が当施設へ遊びに来て交流を図っている。また、家族要望でがんばらマイカー（タクシー）の使用をし他科受診や買物等ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の受診、緊急時の受診も連携している。個人のかかりつけ医院については家族や地域タクシーを利用している。	村の診療所が協力医として、職員がj受診支援をおこなうことから、通院介助が難しいとする8家族が交替しています。法人勤務の看護師が週1回健康管理をおこない、医療情報は看護記録で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談し協力病院の受診時に医師に状態を伝えている。体調変化時や緊急時も同様に看護師に電話相談し適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び家族との連携が図れている。医療機関・家族との連絡を密にし、情報提供・共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階から家族・医師と繰り返し話合いを行い、方針に沿って支援している。	『重度化した場合、医療的な措置が必要になれば、家族と相談して移設のお手伝いをする』ということは契約の段階で合意しており、各々家族の判断で特別養護老人ホームを併せて申し込むなどしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき対応している。マニュアルは事務所に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で話し合いを行い地域協力体制をしいている。消防署の指導のもと、通報・避難誘導・消火訓練を定期的に実施している。村内の防災訓練に自立歩行出来る方は参加している。	開設2年目に消防署から指導受けた内容は毎回の訓練で職員に繰り返し伝えて、浸透させています。また「何かあれば可能な限り受け入れますよ」と有事の際への協力を内外問わず発信しています。	地域、行政と連絡網も敷けていることから、今後は事業所の訓練に参加するメンバーが増えていくことを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を守るよう徹底している。マニュアルで職員に研修している。	食事前順次トイレに向かう様子を視認しました。「いつ声掛けしたのか」何気なく促すことができていて、プロらしい優しさが滲みます。また2名男性がいることから、就寝時の居室には内側から鍵をかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各職員が利用者の希望を聴き取り、可能な限りの支援をしている。自己決定できるよう選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設の運営ルールに基づき、可能な限りその人らしい暮らしの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、その都度職員が対応している。更衣時の服の選択など支援している。また化粧水やクリームなどおしゃれをたのしんでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各人、その日の心身状況に応じて調理・盛付・片付け・食器拭きを一緒に行っている。年1回嗜好調査を実施し改善に努めるようにしている。	食事は職員の手作りで、家庭的な温かみとともに便秘解消なども考慮していることが伝わります。男性利用者が「旨いぞ」と職員援護するのも微笑ましく、全員で食器拭きに勤しむ姿はまるでどこかの職場のようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮しながら調理し、一人ひとりに合わせた食事量を提供している。利用者の訴えによりその都度、水分提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後うがいや歯磨き・義歯洗浄を実施している。定期的に義歯消毒している。（ポリデント）毎食前は口腔体操をお行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の身体状況や排泄パターンに合わせて支援している。定期的に声掛け、誘導し、可能なかぎりといれでの排泄を心がけている。	自ら便座には座れるものの、汚してしまっても気づかないこともあり、そういったケースでは「いつ行くのか」「行ったのか」と職員の気配り、目配りが大いに必要で、そういった意味での気苦労は絶えません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜など繊維質が多いを献立にしたり、水分摂取、適度な運動（散歩、ラジオ体操など）で身体を動かすようにしている。必要に応じ腹部ﾏｯｻｰｼﾞや医師から便秘薬を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴可能ですが本人の意思を尊重し、無理強いをせず、ゆったりと入浴できるよう心掛けている。基本として週2回入浴している。	週２日を清潔の目安としつつ、「入りたい」希望には柔軟に応えています。3面から脚を入れることができる広めの一般浴槽では（自立とあって）独りで可能なものの、洗い残しがないように職員が手伝っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズム・体調に合わせて休息し、安眠できるよう個々に快適な室温・湿度・明るさ・寝具を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬の目的・作用・量を、職員全員が理解し、名前・日付等確認し、職員が手渡し等で服薬頂いている。変化が観られた時には主治医への受診・相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが何らかの役割を持ち、共同生活ができている。また、レクを行ったり、気晴らしのため、散歩や野菜作りに参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限りの外出支援（買い物・散歩・外気浴ドライブ・外食等）ができている。家族との外出・外泊支援もできている。	目にも身体にも良い、景観を眺めながらの散歩は30分程度、快適な気候（4月～7月、9月～11月）の時期におこなわれています。また開設から4年目となり春の芝桜、秋の紅葉狩りでのお弁当や外食イベントは恒例になりつつあります。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは家族の理解の下、施設で預かっている。能力に応じて買い物時は、小遣いを渡し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望は支援しています。また家族の希望で携帯電話や友人、知人との連絡を取り合うことも了解のもと支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・居室には季節感を出す飾り付けをしている。散歩などで収集したはなを飾っている。個室・共用部の照明・温湿度・窓・カーテン等の開閉にも気をつけ住環境を整備している。	パートタイマー職のことを鑑み、ひいては利用者の健康管理第一として、薬の管理表を作る等段ボール材や牛乳パックを再利用して片付けや改善が叶っています。「棚の上には何も置かない」ということも徹底され、換気や掃除の取決めも確かで、清潔です。	冷蔵庫や大きな棚にはつっかえ棒など耐震対策をとることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内ソファー、畳の堀炬燵、食卓テーブル、玄関横には、移動式ベンチもあり、思い思いに過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の嗜好に基づいて居室を自由に使用している。使い慣れた物や好みのものを置いている。（TV・ラジオ等は事前の報告をして頂いています。）	利用者はリビングで過ごすことが多く、居室はその間に職員が掃除機をかけて毎日清掃しています。小さ目のチェストや椅子を持ち込む部屋もありますが、ほとんどはベッドが主で日中はリビングというのが頷けます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の心身状態を考慮して安全・安心・安楽を基本に自立した生活が出来るよう工夫している。（ベッドの高さ調節・電動ベッド、バリアフリー、手摺り、障害者用トイレ、扉は引戸で軽いなど）		